

I. 平成30年度事業運営の特徴と課題

1-1 各保険事業の状況（清雅苑本体）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養 (稼働率)	30年	96.7	96.2	96.9	96.8	96.8	98.0	96.9	96.0	97.1	91.6	93.7	93.2	95.9
	29年	96.1	92.1	95.9	96.2	96.1	96.9	94.5	98.0	95.0	91.0	92.3	94.6	94.9
短期入所 (稼働率)	30年	127.8	108.6	113.9	115.6	122.0	105.0	109.1	126.1	121.0	147.8	147.0	133.9	123.1
	29年	113.3	127.4	108.9	111.8	85.5	94.4	116.1	81.1	107.0	146.2	161.3	124.2	114.8
施設計 (稼働率)	30年	98.8	97.1	98.1	98.1	98.5	98.5	97.7	98.1	98.7	95.5	97.2	95.9	97.7
	29年	97.2	94.5	96.8	97.3	95.3	96.7	96.0	96.8	95.8	94.7	97.0	96.6	96.2
通所 (稼働率)	30年	89.0	93.0	90.4	85.8	86.9	88.3	88.5	89.3	88.0	89.7	87.1	85.9	88.5
	29年	83.8	85.5	81.7	82.3	80.1	86.4	86.6	84.0	83.2	81.1	81.7	87.0	83.6
営業日数	30年	25	27	26	26	27	25	27	26	25	24	24	26	308
	29年	25	27	26	26	27	26	26	26	26	24	24	27	310
介護予防 プラン	30年	255	259	258	263	262	266	278	277	277	270	272	272	267.4
	29年	206	205	211	215	218	222	225	239	239	239	243	248	225.8
(直営)	30年	102	109	110	113	107	112	114	110	89	81	83	84	101.2
	29年	65	66	72	74	78	83	88	97	96	95	95	101	84.2
(委託)	30年	153	150	148	150	155	154	164	167	188	189	189	188	166.3
	29年	141	139	139	141	140	139	137	142	143	144	148	147	141.7

※平成29年度より、通所介護の一般型と認知症型を統合する。

1-2 各保険事業の状況（みやびやか旭） 平成23年5月開設

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
居宅介護 支援	30年	121	125	126	127	124	127	126	128	126	128	124	115	124.8
	29年	131	132	132	123	124	132	131	132	129	128	127	127	129
介護予防 プラン	30年	21	22	20	20	20	19	20	20	20	20	15	14	19.3
	29年	20	19	19	19	19	19	21	20	21	21	22	22	20.2
訪問介護 (時間)	30年	1605. 5	1725	1639. 75	1685.2 5	1739	1487	1692. 5	1646. 5	1482. 75	1427	1505	1591	1602. 2
	29年	1431. 55	1583.8	1506. 75	1465	1549. 25	1546. 75	1557. 05	1572. 75	1546. 25	1408. 25	1393. 75	1617.5	1514. 9
営業日数	30年	25	27	26	26	27	25	27	26	25	24	24	26	308
	29年	25	27	26	26	27	26	26	26	26	24	24	27	310

※1 居宅介護支援・介護予防プランの数値は、ケアプラン作成件数を表示

※2 平成29年より居宅介護支援をみやびやか旭に統合する。

2-1 介護老人福祉施設の利用状況

平成30年度は、感染症を流行させないように予防策として、年間通してのヤクルトの飲用の継続、冬季期間中の面会者・来苑者へのマスク着用、手洗い、うがいの窓口でのアナウンスを実施しました。冬季に流行る感染症については、感染者ゼロで抑えることが出来ました。30年度に関しては退所が27件と比較的多かったですが、上半期については比較的スムーズに次の候補者をあたる事が出来ました。しかし、冬季の時期に関しては、急な退所、入院が多くなってしまった事で、すぐに空床ベッドをうめることが出来ず、稼働に影響が出てしまいました。今後も空床ベッドが発生した際、待機者の方がすぐに入所できるように上位待機者の状況をしっかりと把握していき、事前の面接を進めていきたいと考えています。

30年度は、入所：27件、退所：27件、内16件は施設内での看取り介護を行いました。入退所件数は昨年より3件少ない状況で、年間平均稼働率95.8%と昨年度より0.9%高く推移しました。看取り介護についても年々件数が増えてきています。

2-2 短期入所生活介護の利用状況

昨年度に比べ、平均稼働率は123.1%と8.3%増加しました。秋から冬にかけての期間にご利用者が少なくなり、ショートステイベッドの定員割れがみられることもありました。特養入所者の入院や退所でベッドが空いた際には延泊のアナウンスや営業活動を行い、昨年度より稼働の増加につながりました。また、緊急での利用依頼も多くあり、その都度受け入れの対応をしています。虐待、主介護者の体調不良での緊急利用が多く、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所のケアマネージャーの方と連携を取り、柔軟な受入を行っています。

2-3 通所介護の利用状況

30年6月のより個別機能訓練加算を算定させていただき、ご要望のあった機能訓練を充実させることで地域のニーズに応えてまいりました。また、1年を通して温暖な気候であったこともあり、天候の影響を大きく受けることなく営業することが出来、寒さによるご利用の皆様の体調不良も例年より少なかったように感じています。結果、平均して88.5%の稼働となり、昨年よりも多くの皆様にご利用いただくことが出来ました。活気のある明るい環境がご利用者の皆様への刺激にもなっていると思われまます。入浴や活動の充実などにも引き続き力を入れ、ケアマネージャーの方と連携を取り、重度の方の受け入れも引き続き積極的に行っていきたいと思ひます。

2-4 きよせ清雅地域包括支援センターの活動状況

4月当初、職員体制は、社会福祉士1名(兼務)、主任介護支援専門員2名、看護師1名、介護支援専門員1名の計5名体制で業務を遂行しています。しかし、9月に1名主任介護支援専門員が、12月半ばで看護師が体調不良で欠員となり、残りの職員と12月から3月まで週3日時間も限定で非常勤勤務の職員で多忙な業務を遂行致しました。時間外勤務も多くなりましたが、総合相談を始め各事業は保険者及びご利用者に影響が出ることはなく年度末を迎えました。計画数においての前年度比は、平均値としては直営分を下げることなく実績を上げています。

事業に関しては清瀬市地域包括支援センターの運営事業・計画にのっとり、地域包括支援センターが公正・中立な立場を確保し、示された業務を円滑かつ適正に進めて参りました。平成29年度から始めた「アウトリーチ事業」は年々増え続ける80歳以上の独居高齢者に加え、80歳以上と70歳以上の同居者がいらっしゃる世帯もアウトリーチの対象者として枠を広げて行っています。包括支援センターや介護支援専門員による支援を受けていない方に対して、有意義な働きかけができる結果を前年度同様に得られています。また、住み慣れた地域で清瀬市の高齢者の複雑・多様化した課題を各委員会に参加し検討・協議して課題や問題の整理を行い、ご利用者に役立つ包括支援センターの構築を図りました。

他、清瀬市高齢者元気回復事業の委託を受け、活動の場が減少しがちな高齢者に対し、社会参加や活動の場を提供することをひとつのきつくとし、閉じこもりの予防、運動機能低下予防、認知機能の低下予防を目標とする教室「せいが中里元気塾」を毎週木曜日に実施し、利用者も定着して参りました。

「生活支援コーディネーター」は地域包括支援センターの「支え合いのしくみづくり」の中の「助け合い活動に掛かる研修会」及び「清瀬市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体」へ、着実に貢献と実績を上げ地域主導の「2層協議体」の立ち上げも成果を出しています。

2-5 居宅介護支援事業（みやびやか旭）の利用状況

昨年度に引き続き、常勤3名、非常勤2名の5名体制で運営を開始しましたが、年度途中で退職、入職があったため、居宅介護支援の実績は昨年度と比較し、微減となっています。

末期癌の看取りケースや、ご本人やご家族の精神疾患、8050問題、経済的困窮など、介護分野だけでは解決が図れない多問題ケースが増えており、日々の支援について行政を始め、地域包括支援センター、その他の相談機関との連携の重要性を実感しています。

事業所所在地の清瀬旭が丘団地は、平成30年度中に団地内のスーパーや診療所が急遽閉鎖し、この圏域で生活している高齢者の方々の生活に大きな変化があった年でした。

2-6 訪問介護事業（みやびやか旭）の利用状況

平成30年度は、派遣時間数の目標は、月間平均1,596.5時間と設定していましたが、月間平均約1,602.2時間でした。昨年度より月間平均では87時間の増加でした。

新規の依頼もあれば終了になるケースもあり変動がありますが、新規に関しての相談は途切れることなくございました。非常勤のサービス提供責任者もいるため、ケアマネージャーへの受け入れ返答が少しでも早くできるよう登録ヘルパーの空き時間を共有する仕組みを構築致しました。

総合事業の支援を行う市内事業所が減少したためより多くの要支援1・2・総合事業ご利用者をお受けするためにも援助時間を45分として支援をさせて頂きました。

また、人材の確保が難しい中、在籍中の職員からの紹介にて4名の仲間が加わりました。引き続き職員が働きやすい環境を整え、長く訪問介護の仕事に従事していけるような人材育成に力を入れてまいります。